

研究課題

上部消化管腫瘍のゲノム・遺伝子解析とその臨床病理学的意義の解明に関する研究

1. 研究の対象

2008年4月～2018年3月に東京大学医学部附属病院で胃腫瘍・食道腫瘍・十二指腸腫瘍の手術を受けられた方

2. 研究目的・方法

胃腫瘍は本邦における悪性新生物による死亡数の第2位であり、また胃から食道にかけて発生する食道胃接合部癌、およびバレット食道癌も増加傾向にあります。これら胃・食道・十二指腸に発生する腫瘍(以下、上部消化管腫瘍とする)の発症あるいは悪性化に関連する遺伝子を同定し、その意義を解明することは、上部消化管腫瘍制圧のため重要な課題です。本研究では、上部消化管腫瘍組織及び非腫瘍部について、マイクロアレイを用いた上部消化管腫瘍に特異的に変化する遺伝子の同定を目的とし、発現変化機構の解析としてDNAメチル化異常などのエピジェネティクス解析、ゲノムコピー数解析、一塩基多型情報を用いた対立遺伝子座欠失解析などを統合的に行います。上部消化管腫瘍、非腫瘍性胃病変における遺伝子発現、局在、動態を明らかにし、治療効果、予後を含めた臨床病理学的指標との関連性について検討することで、上部消化管腫瘍の診断・治療に応用可能な分子標的を見出すことが目的です。

本研究では東京大学医学部附属病院において外科的に摘出された上部消化管腫瘍手術検体400例を対象とします。腫瘍及び非腫瘍部を病理診断に支障の無い量だけ凍結検体を採取します。免疫組織化学的な染色については、通常の病理診断が終了した後のパラフィンブロックを用います。被験者が未成年、あるいは成年でも十分な判断力の無い場合や意識のない場合は研究対象から除きます。これらの解析を東京大学先端科学技術研究センター、東京大学人体病理学および千葉大学大学院医学研究院分子腫瘍学において共同研究します。研究期間は平成27年5月から平成30年3月31日までとします。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

試料: 胃・食道・十二指腸の腫瘍部分と、腫瘍背景の非腫瘍性粘膜部分、末梢血

情報: 個人情報を含む情報を保護するため、試料等は「倫理指針」に定められた方法にしたがって、個人情報管理者あるいは分担者により匿名化されたのち遺伝子解析に用います。具体的には個人の氏名やカルテ番号などがわからないように、すべての試料等を番号化したのち遺伝子解析に用います。

4. 外部への試料・情報の提供

個人情報の管理には、他のコンピューターと連結されていないコンピューターを用いることとし、その情報は外部記憶装置に保存して、個人情報分担管理者がその保管場所に厳重に保管す

るものとします。個人情報管理には千葉大学医学部附属病院と千葉大学大学院医学研究院の各責任者がその任にあたるものとします。

5. 研究組織

総責任者:

東京大学大学院医学系研究科人体病理学 教授 深山正久

千葉大グループ責任者:

千葉大学大学院医学研究院分子腫瘍学 教授 金田篤志

他の共同研究グループ:

東京大学医学部附属病院胃食道外科 教授 瀬戸泰之

東京大学先端科学技術研究センターゲノムサイエンス分野 教授 油谷浩幸

6. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先:

〒260-8670 千葉市中央区亥鼻 1-8-1 電話 043-226-2039 (講座受付)

千葉大学大学院医学研究院分子腫瘍学 教授 金田篤志(研究責任者)

研究代表者:

東京大学大学院医学系研究科人体病理学 教授 深山正久